

世界初の完全ビジュアル・ガイドブック!

「なぜ見えるのか」「日本のどこで、いつ見られるのか」から、歴史や美術の中の蜃気楼までを、美しい写真で紹介。

A4変型判並製
(左右220mm×天地198mm)
108頁(うち72頁カラー)
対象:中学生以上
定価(1800円+税)

しん き ろう

蜃気楼のすべて!

日本蜃気楼協議会



ISBN 978-4-7942-2200-8

「蜃気楼って、いったい何?」

蜃気楼とは、光が、温度の異なる空気の層を通過することで屈折し、遠くの景色が伸びたり縮んだり、反転したりして見える気象光学現象。本書は、その蜃気楼のあらゆる側面を、美しい写真とともに紹介する世界で初めての本です。

- ◎ 蜃気楼が見えるのはなぜ? 蜃気楼を発生させる空気層はどうできる?
- ◎ 日本のどこで、いつごろ、どんな天気のと看見られる?
- ◎ 「蜃気楼」の語源は? 日本初の蜃気楼目撃記録はいつのこと?
- ◎ 美術工芸品や骨董などに、蜃気楼はどのように描かれてきたか?
- ◎ 新しい手法の導入で近年急速に発展した蜃気楼研究の最前線



Z字形に変形する琵琶湖大橋(5月中旬 15時、滋賀県大津市)



夕日に染まる新湊大橋(4月下旬 18時、富山県魚津市)

蜃気楼の科学・観察ガイド・歴史・美術など、まさに蜃気楼のすべてを知ることができる一冊です。



草思社
営業部

全国の書店にて好評発売中! お近くの書店様にてお買い求めください。

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-3-15 TEL03(4580)7676 FAX03(4580)7677 <http://www.soshisha.com/>

上方に反転した遊覧船 (猪苗代湖)

13km先にある遊覧船の「かめ丸」(左)や「はくちょう丸」(右)が、上方に反転している。このように大きく変化する様子はなかなか見ることができない(5月下旬 11時、郡山市湖南町浜路)



大阪湾の船が変形

夏になると海水浴客で賑わう兵庫県神戸市の須磨海岸では、春には蜃気楼を見ることができる。対岸は霞んで見えなかったが、数km先を航行する船が大きく変形している。(5月下旬 15時、神戸市須磨海岸)



「蜃気楼」の「蜃」は、江戸時代の日本では蛤(はまぐり)のような二枚貝だとされ、蛤が気を吐いて楼閣のまぼろしを生じさせる図がよく描かれた。江戸後期にはおめでたい文様として認知され、皿などに描かれた。

歴史の世界から見た蜃気楼

美術工芸品の中の蜃気楼



日本各地や世界の蜃気楼を写真で紹介

- 魚津(富山県) 琵琶湖(滋賀県) 小樽(北海道) 斜里(北海道) 苫小牧(北海道)
- 猪苗代湖(福島県) など東北の蜃気楼 大阪湾(大阪府・兵庫県)
- 南極・昭和基地 東京から魚津へ日帰りで蜃気楼を見に行く

著者紹介 日本蜃気楼協議会

全国各地の蜃気楼に関する情報交換、調査研究、教育の普及を図ることを目的に 2003年に発足した団体。会員は気象や教育関係者、博物館・科学館に携わる人から、カメラマンや蜃気楼愛好家など、バラエティに富む。毎年、研究発表会等を開催し、会員相互の親睦を図っている。蜃気楼に興味を持った人であれば誰でも 入会できる。詳細はウェブサイトを参照。<http://www.japan-mirage.org/>